Unit 4

Dialog 概要

pp.24-25

* デヴィッドとルミは学食にいる。周囲の人々が会話もせずに皆携帯電話をじっと見つめてテキスト・メッセージを送ったり受け取ったりしているのでデヴィッドは驚くが，実はアメリカでも同様のようだ。人々は図書館でもレストランでも電車でもどこでもインターネットやSNSをやっている。ルミも同じだが家では極力使わないようにしていると言う。
* デヴィッドは人々がインターネット中毒になっており自分もそうだと言う。それにしても米国の友人と簡単にメッセージのやり取りができるのはすばらしいと思っている。特にデヴィッドは友人と遠く離れた海外にいるのでこの種のテクノロジーなしに暮らすのは厳しいし，生活を良いものにしてくれるものだと考えている。
* しかしデヴィッドは人々が話もしないでいるのは健全ではないと考えてもいる。直接会ってコミュニケーションを取ることも，インターネットから離れた時間を過ごすことも重要なことだからだ。ルミもこれに同意するが，オンラインでのコミュニケーションが流行っているから今やそれなしで過ごす生活は考えられない。
* 自分は専門家ではないからと言いながらもルミの質問に答える形でデヴィッドはインターネットの歴史について話し始める。コンピュータは1950年代に開発され，最初に運用したパケット通信網は1960年代から1970年代に発達し，ワールドワイドウェブは創設されたのは1990年代の初めであった。
* ルミの父親は新しいテクノロジーが大好きで，1990年代の中頃にはオンラインでSNSを使い始めたと言う。
* デヴィッドは，1980年代にインターネットは進歩したので，ワールドワイドウェブが登場して初めて一般の人々に普及したので，ルミの話が理解できると言った。

Part 1概要

* 学食にいる学生たちは携帯電話を見つめていて，インターネットをやったりSNSをやったりしているようだ。デヴィッドとルミはこの種のテクノロジーが人々をインターネット中毒にしていると言う。
* ルミはデヴィッドに人々がいつからインターネットを使い始めたかについて質問する。デヴィッドが言うには，コンピュータは1950年代に開発され，最初に運用したパケット通信網は1960年代から1970年代に発達し，ワールドワイドウェブは創設されたのは1990年代の初めであったということだ。

Part 2概要

* 学食にいる学生たちは携帯電話を見つめていて，インターネットをやったりSNSをやったりしているようだ。デヴィッドとルミはこの種のテクノロジーが人々をインターネット中毒にしていると言う。
* デヴィッドは米国の友人と簡単にメッセージのやり取りができるのはすばらしいと思っていて，友人と遠く離れた海外にいる彼のような人には役立っていると言う。
* しかしデヴィッドは直接会ってコミュニケーションを取ることも，インターネットから離れた時間を過ごすことも重要なことなので，人々が話もしないでいるのは健全ではないと考えてもいる。
* 最後に，ルミとデヴィッドは人々がいつからインターネットを使い始めたかについて話す。デヴィッドが言うには，コンピュータは1950年代に開発され，最初に運用したパケット通信網は1960年代から1970年代に発達し，ワールドワイドウェブは創設されたのは1990年代の初めであったということだ。

Part 3概要

* 学食にいる学生たちは携帯電話を見つめていて，インターネットをやったりSNSをやったりしているようだ。デヴィッドとルミはこの種のテクノロジーが人々をインターネット中毒にしていると言う。
* デヴィッドは中毒性があるとはわかっていても，米国の友人と簡単にメッセージのやり取りができるのはすばらしいと思っていが，ルミは友人や家族とはほぼ毎日会っているので必要ないと言う。
* しかしデヴィッドは直接会ってコミュニケーションを取ることも，インターネットから離れた時間を過ごすことも重要なことなので，人々が話もしないでいるのは健全ではないと考えてもいる。
* 最後に，もルミの質問に答える形でデヴィッドはインターネットの歴史について話し始める。デヴィッドが言うには，コンピュータは1950年代に開発され，最初に運用したパケット通信網は1960年代から1970年代に発達し，ワールドワイドウェブは創設されたのは1990年代の初めであったということだ。
* ルミの父親は1990年代の中頃にはオンラインでSNSを使い始めたと言うが，デヴィッドは，ワールドワイドウェブが一般の人々に普及する重要な役割を果たしたので納得できた。